



# 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 昭和鉄工株式会社 上場取引所 福  
コード番号 5953 URL <https://www.showa.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 日野宏昭  
問合せ先責任者（役職名） 取締役上級執行役員（氏名） 尾島孝則（TEL）092-933-6390  
半期報告書提出予定日 2024年11月11日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	6,352	3.8	399	118.6	449	56.5	272	40.2
2024年3月期中間期	6,117	9.0	182	—	287	—	194	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 △292百万円（—%） 2024年3月期中間期 824百万円（391.3%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	330.44	—
2024年3月期中間期	235.62	—

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	18,474	8,370	45.3
2024年3月期	19,956	8,779	44.0

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 8,370百万円 2024年3月期 8,779百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	140.00	140.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	70.00	70.00

（注）1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 2 配当金内訳

2024年3月期期末 普通配当50円00銭 特別配当50円00銭 記念配当40円00銭

2025年3月期期末（予想） 普通配当50円00銭 特別配当20円00銭

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,800	2.1	670	1.2	780	△6.3	580	△44.7	703.91

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年3月期中間期	897,000株	2024年3月期	897,000株
2025年3月期中間期	73,138株	2024年3月期	73,063株
2025年3月期中間期	823,902株	2024年3月期中間期	823,982株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善等により緩やかな持ち直しの動きもみられましたが、物価上昇や不安定な為替相場等、依然として先行き不透明な状況が続きました。このような情勢の中で当社グループは、中期経営計画「人財戦略・事業戦略を一貫させた強い昭和鉄工で持続的社會への一翼を担おう！」を掲げ、2025年度に連結売上高145億円以上、連結売上高営業利益率5.3%以上を実現するため、

- ・事業運営と管理運営の抜本的見直し(データドリブン経営)
- ・組織風土改革と自律人財の育成(人財第一主義経営)
- ・ライフサイクル型事業の推進
- ・サステナブル新商品の創出

の重点課題に取り組んでまいりました。

当中間連結会計期間の売上高は63億5千2百万円(前年同期比3.8%増)、営業利益は3億9千9百万円(前年同期比118.6%増)、経常利益は4億4千9百万円(前年同期比56.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は2億7千2百万円(前年同期比40.2%増)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ・機器装置事業

機器装置事業につきましては、原材料価格の高騰に対応した適正な売価の設定や製造工程の見直しによる原価低減等を実施したことにより、利益が増加しました。

その結果、当事業の売上高は34億1千7百万円(前年同期比1.7%減)、営業利益は2億4千1百万円(前年同期比414.9%増)となりました。

#### ・素形材加工事業

素形材加工事業につきましては、景観製品において当期の販売が下期に集中していることもあり、前年同期比で減収となりました。

その結果、当事業の売上高は7億1千6百万円(前年同期比22.2%減)、営業損失は1億5百万円(前年同期は営業利益7百万円)となりました。

#### ・サービスエンジニアリング事業

サービスエンジニアリング事業につきましては、大口の空調設備・給排水衛生設備工事案件があったことなどにより好調に推移し、売上高及び利益が増加しました。

その結果、当事業の売上高は22億1千9百万円(前年同期比29.1%増)、営業利益は2億6千3百万円(前年同期比105.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債・純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ14億8千1百万円減少し、184億7千4百万円となりました。主な要因は、受取手形、売掛金及び契約資産が8億7百万円、投資有価証券が8億1千2百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ10億7千3百万円減少し、101億3百万円となりました。主な要因は、電子記録債務が2億4百万円、未払法人税等が1億7千4百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4億8百万円減少し、83億7千万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金が5億7千4百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ4千2百万円増加し32億8千6百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動の結果獲得した資金は5億1千7百万円(前年同期は2億4千万円の獲得)となりました。これは主に、売上債権の減少額12億3千6百万円による増加と棚卸資産の増加額3億8千8百万円、仕入債務の減少額3億1千1百万円による減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動の結果支出した資金は2億8千6百万円(前年同期は3千4百万円の支出)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出2億8千8百万円による減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動の結果支出した資金は1億8千8百万円(前年同期は1億1千3百万円の支出)となりました。これは主に、配当金の支払額1億1千5百万円による減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日公表時から変更しておりません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,243	3,286
受取手形、売掛金及び契約資産	2,916	2,108
電子記録債権	1,721	1,292
商品及び製品	272	574
仕掛品	1,265	1,334
原材料	589	606
その他	28	89
貸倒引当金	△4	△2
流動資産合計	10,033	9,291
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,584	1,584
その他(純額)	1,944	1,992
有形固定資産合計	3,528	3,576
無形固定資産		
	74	87
投資その他の資産		
投資有価証券	6,124	5,311
その他	210	222
貸倒引当金	△15	△14
投資その他の資産合計	6,319	5,519
固定資産合計	9,922	9,183
資産合計	19,956	18,474
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	796	689
電子記録債務	2,087	1,882
短期借入金	3,150	3,150
未払法人税等	270	95
その他	1,711	1,319
流動負債合計	8,015	7,136
固定負債		
長期借入金	225	175
退職給付に係る負債	1,388	1,387
繰延税金負債	1,108	981
その他	440	423
固定負債合計	3,161	2,967
負債合計	11,177	10,103

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,641	1,641
資本剰余金	1,226	1,226
利益剰余金	2,636	2,793
自己株式	△130	△131
株主資本合計	5,372	5,529
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,380	2,806
退職給付に係る調整累計額	25	35
その他の包括利益累計額合計	3,406	2,841
純資産合計	8,779	8,370
負債純資産合計	19,956	18,474

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	6,117	6,352
売上原価	4,685	4,655
売上総利益	1,432	1,697
販売費及び一般管理費	1,249	1,298
営業利益	182	399
営業外収益		
受取利息及び配当金	77	93
為替差益	32	—
その他	19	12
営業外収益合計	129	106
営業外費用		
支払利息	17	18
為替差損	—	28
その他	7	9
営業外費用合計	24	56
経常利益	287	449
特別利益		
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	1	—
税金等調整前中間純利益	288	449
法人税、住民税及び事業税	68	67
法人税等調整額	25	109
法人税等合計	93	176
中間純利益	194	272
親会社株主に帰属する中間純利益	194	272

## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	194	272
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	610	△574
退職給付に係る調整額	19	9
その他の包括利益合計	630	△564
中間包括利益	824	△292
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	824	△292
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	288	449
減価償却費	117	136
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	△2
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△24	13
受取利息及び受取配当金	△77	△93
支払利息	17	18
投資有価証券売却損益(△は益)	△1	—
売上債権の増減額(△は増加)	418	1,236
棚卸資産の増減額(△は増加)	△226	△388
仕入債務の増減額(△は減少)	△420	△311
その他の資産・負債の増減額	117	△375
その他	0	1
小計	207	683
利息及び配当金の受取額	77	93
利息の支払額	△16	△19
法人税等の支払額	△27	△239
営業活動によるキャッシュ・フロー	240	517
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の売却による収入	1	—
有形及び無形固定資産の取得による支出	△38	△288
その他	2	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△286
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	200	—
長期借入金の返済による支出	△250	△50
配当金の支払額	△41	△115
自己株式の取得による支出	—	△0
リース債務の返済による支出	△22	△22
財務活動によるキャッシュ・フロー	△113	△188
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	92	42
現金及び現金同等物の期首残高	2,351	3,243
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,443	3,286

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。